

るに、大顛閔夏のともがら、善馬以下寶を奉りてゆりにけり、是はそれにもよらざりければ、其妻申かねて歸にけり、そのち、檢非違使所書生を實檢使に指遣はすによりて、基衡力及ばず、なく、季春并子息舍弟等五人が頸を切てけり、さてこそ國司をまづまりにけれ、國の者どもいひけるは、季春が命をたすけむために、國司に贈所の物、一萬兩の金をさきとして、おほくの財也、殆當國の一任の土貢にもすぐれたり、是を見入給はず、女にもかたさらずして、つるにためしを立給へる、國司の憲法たとへをまらすとぞほめの、まりけるか、りければ國併なびきまたがいて、思さまに行ひたり、吏務感應前々の國司よりもこよなうおもかりけり、後に君聞召ていみじく御感有けるとぞ、○又見古事談

〔台記〕久安六年七月廿三日丁酉、召尾張成重仰云、汝年老家貧、勤勞無懈、吾深憐之、欲令檢注尾張國日置庄、如何、對云、臣昔爲熱田神主、是以彼國有勢者敬禮尤深、今貧賤向彼國、昔從者必有蔑如何、況去神主職之誓言、不還補此職、不復向此國矣、何貪小利、變先言乎、敢辭之、余深感此言、故書之十一月三十日壬寅、入夜季通朝臣來語曰、昔父宗通卿臨終、處分所領田園於諸子、其處分帳、伊通卿書之、伊通信通兩卿加署、以肥後國三重屋庄、丹波國今林庄、讓故信通卿、命諸子曰、所讓之庄、謂宗通卿妻生存日諸子莫領之、母逝去後、任處分帳、諸子各領之、于時信通卿嫡子右少將行通朝臣可五六歲、父卿薨年信通卿亦薨去、九月其母逝去、臨終與三重屋庄於伊通卿、與今林庄於重通卿、命曰、此兩庄者、先人所讓信通卿也、而彼卿早逝、汝等宜領之、重通謹受命、伊通辭曰、此庄者、先考臨終讓與兄卿、彼卿已薨、理宜與嫡孫、我昔書其處分狀加署了、今受母命、忤父言、非法律所許、上恐天道、下恥人倫、不敢受命矣、即召行通朝臣、具書事狀、與其庄了、時人稱其孝友廉直、

〔吾妻鏡四〕元曆二年○文治元年八月廿四日甲戌、下河邊庄司行平、蒙歸參御免、自鎮西去夜參著、○中今

日參營中、獻盃酒二品、源頼朝出御武州北條殿、已下群參、行平稱九國第一、進弓一張之處、仰曰、無左右